

● BROOKLYN MUSEUM ●

200 Eastern Parkway

Brooklyn, NY 11238

プレスリリース

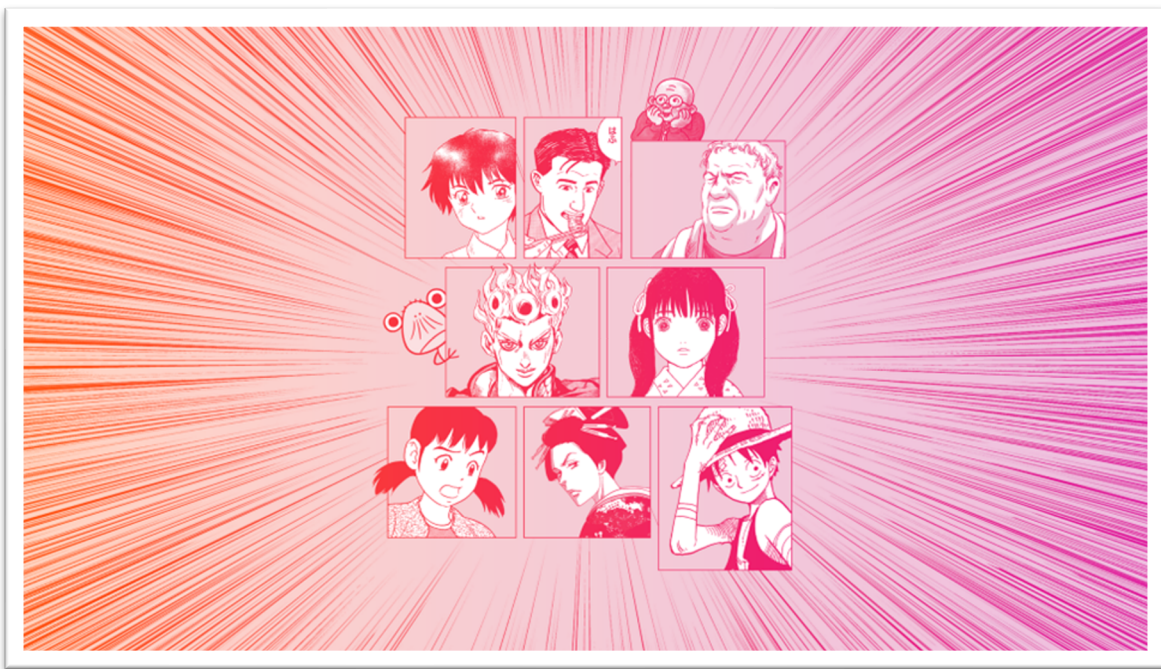
2026年 4月 29 日水曜日

718.501.6354

press@brooklynmuseum.org

ブルックリン美術館にて開催 「*Art of Manga*」展

「*Art of Manga*」は、マンガを芸術表現として探求するアメリカ大陸で初めての大規模展。日本を代表する名作、そしてその作品が世界の物語表現や社会に与えてきた影響を取り上げます。2026年10月3日より開催。



©Rumiko Takahashi/Shogakukan; ©PAPIER/Jirō Taniguchi, Masayuki Qusumi, FUSOSHA; “Hinemosu notari nikki”; ©Tetsuya Chiba/Big Comic (Shogakukan); ©Mari Yamazaki, Tori Miki/Shinchosha; ©Fujio Akatsuka; ©Hirohiko Araki & LUCKY LAND COMMUNICATIONS/Shueisha; ©Kazumi Yamashita/KODANSHA LTD.; ©Gengoroh Tagame/Futabasha Publishers Ltd.; ©Fumi Yoshinaga/HAKUSENSHA, Inc.; ©Eiichiro Oda/Shueisha

マンガをテーマにした画期的な「*Art of Manga*」展が、ブルックリン美術館にて開催されます。マンガとはコミックとグラフィックノベルの分野における、日本ならではの革新的な表現方法で、感情を揺さぶり、読者を物語世界へ引き込むことが特徴です。本展は、マンガを芸術表現として探求するアメリカ大陸で初めての展覧会として、2025 年秋にサンフランシスコ美術館（デ・ヤング美術館含む）でオープンしました。そして今秋、ブルックリン美術館において、東海岸初の開催となります。大変著名なマンガ家の原画 600 点以上を展示し、現代におけるマンガの没入感あふれる表現力と社会的インパクトに焦点を当てます。

「*Art of Manga*」展はサンフランシスコ美術館が企画し、イーストアングリア大学 のセインズベリ日本藝術文化研究所リサーチディレクターのニコル・クーリッジ・ルマニエール氏がキュレーションを担当しています。ルマニエール氏は本展に引き続き協力しており、展示は、アジア美術部門キュレーター長兼セルツ上席キュレーターのジョーン・カミンス氏、フィリップ&イディス・オーガナイゼーション写真部門キュレーターのポーリン・ヴェルメア氏、アフリカ・アジア・イスラーム世界美術部門キュレーター補のヤーラ・ドゥマーニ氏の監修のもとで実施されます。

「*Art of Manga*」展では、日本のマンガ界におけるアーティストの重要な役割を紹介します。マンガは巨大な産業ですが、その根幹を担っているのは、作品の構想、作画、そして多くの場合は物語の創作まで手がける個々のアーティストたちです。本展では、年齢も経歴もまちまちで、個性的なアプローチで物語を紡ぎマンガ界全般に大きな影響を与えてきた力のあるアーティスト＝マンガ家たちを中心に据えています。彼らの作品は、そのひとつひとつが心をつかむストーリーと絵で描かれ、日常と超自然、歴史と未来、思索とアクションといったテーマを行き来しながら、多彩な世界とキャラクターを生み出しています。その物語は、成長や内なる力の発見、日常に潜む美といった普遍的なテーマのみならず、環境問題、ジェンダーの役割、LGBTQ+の権利、社会経済格差などといった現代の問題をも取り上げています。本展で取り上げているマンガ家の多くは、ペンとインクを使って紙に手描きをしています。

「この展覧会を際立たせているのは、マンガ家にフィーチャーした構成です。米国の人々には日本のマンガ原画を目にする機会がほとんどなく、ましてやこれだけ多数の原画が一堂に会することは稀です」とカミンス氏。「原画を見ることで、それぞれのマンガ家の創作過程や、個性が際立つ理由を理解できます。マンガ家たちはその卓越した描写力によって、身近な現実から完全な幻想まで、多様な世界を創り上げていくのです」

「マンガは描線が持つ力を用いて、読者を物語へと引き込む、視覚的な物語の形態です。芸術表現としてのマンガは、急速に世界的な現象へと発展し、普遍性は言語に依拠しないという証左となりました」とルマニエール氏。「これまでにないほど多数のオリジナル原画が展示されており、各作品の世界に没入した来館者は、展示を見終える頃にはマンガという表現への理解を深めているのです」

美術館1階に広がる吹き抜けのグレートホール・ギャラリー（Great Hall galleries）での展示は、マンガへの導入から始まります。来館者は、物語性に優れたマンガの名手ちばてつや（1939年生）と、「ギャグマンガの王様」として知られる赤塚不二夫（1935-2008）という、マンガの礎を築いた2名の作品に触れながら、マンガを歴史的文脈の中で捉えるとともに、マンガとは何か、その読み方、どのように創られ、流通しているのかについて理解を深めていきます。その後が続くのは8人の有名マンガ家の作品を集めた個別のセクションです。制作過程とともに、線描と構図を駆使して動き、空間、音、感情、身体的な力をも喚起する巧みな手法を紹介します。特集しているマンガ家（五十音順）は以下のとおりです。

- 荒木飛呂彦（1960年生）長期にわたり連載され、世界中で愛され続けているマンガシリーズ『*ジョジョの奇妙な冒険*』の作家
- 尾田栄一郎（1975年生）史上有数の売り上げを誇るマンガシリーズ『*ONE PIECE*』の作家
- 高橋留美子（1957年生）48年以上にわたりベストセラー作家として活躍。少年漫画にラブコメを融合させ、超常現象を交えることも多い作風
- 田亀源五郎（1964年生）ゲイ漫画ジャンルで高評価を受けているアーティスト

- 谷口ジロー（1947-2017）映画的な語り口で知られ、文学、歴史、SF、グルメなど、幅広いジャンルに作品を展開してきた、国際的に高く評価されているマンガ家
- ヤマザキマリ（1967年生）手描きとデジタルの双方に長けた多才なアーティストで、西洋の歴史物語や伝記をマンガとして再構築。
- 山下和美（1959年生）数々の賞に輝くマンガ家で、少女マンガから出発したのち、青年マンガ、エッセイ、文学的作品へと活動の幅を広げ、社会的圧力や日常の人間関係、都市環境を題材にした作品で知られている
- よしながふみ（1971年生）長期にわたる連載作品と、人物を軸とした洗練された物語表現で高く評価されている。日常の繊細でユーモアを交えた描写を通して親密な感情関係を描き、江戸時代を舞台とした歴史作品では独自の解釈を提示した

またそのほかにも、伊藤潤二、亜樹直&オキモト・シュウ（『神の雫』）、とり・みき（ヤマザキマリ共著『プリニウス』）の原画を展示します。最後のセクションでは、マンガを“生きた芸術”としてとらえる「集英社マンガアートヘリテージ」の試みを紹介、尾田栄一郎『ONE PIECE』、池田理代子『ベルサイユのばら』、久保帯人『BLEACH』のアートプリントに加え、アーティスト田名網敬一によるマンガ家・赤塚不二夫とのコラボレーションからセレクトした作品も展示します。

本美術館は200年以上にわたり、従来の美術史の枠の内外を問わず、人々が自分自身や周りの世界をどのように捉えるかを形づくる創造的表現を積極的に受け入れてきました。マンガがもたらした美的、物語的、文化的に広範な影響をたどる「*Art of Manga*」展は、世代や文化を超えて世界中で深く愛されるマンガというメディアを浮き彫りにします。本展は、マンガへの情熱に導かれてやってくる新たな観客を迎え入れる大きな機会を美術館にもたらすだけでなく、アーティスト、美術史研究者、マンガという芸術形式にあまり馴染みのない来館者にも、マンガの芸術的な厳密さ、革新性、世界的な広がりに触れる場を提供します。

本展はまた、数世紀にわたる日本美術の歴史的 작품을幅広く所蔵する本美術館の長年の取り組みの上に立ち、これを補完するものです。この取り組みは、日本の歴史的な木版画作品を、世界的に有名な日本のアーティストである村上隆の現代の作品と融合させた2024年の『歌川広重名所江戸百景 (feat. 村上隆)』展で体现されています。これらの展覧会は、日本美術を歴史的文脈に根ざしたものとして捉えると同時に、現在もなおダイナミックに進化し続ける表現として紹介するという、本美術館の取り組みを明確に示しています。

本展では、ニコル・ルマニエール氏編集の図録『*Art of Manga*』を販売します。サンフランシスコ美術館とVIZ Media協働で2025年に刊行されました。

クレジット

「*Art of Manga*」展は ファイン・アーツ・ミュージアム・オブ・サンフランシスコが企画し、イーストアングリア大学、セインズベリー日本藝術文化研究所のリサーチディレクター・ニコル・クーリッジ・ルマニエール氏がキュレーションを担当しています。ブルックリン美術館での展示は、アジア美術部門キュレーター長兼セルツ上席キュレーターのジョーン・カミンズ氏、フィリップ&イディス・レオニアン・オーガナイゼーション写真部門キュレーターのポーリン・ヴェルメア氏、アフリカ・アジア・イスラーム世界美術部門キュレーター補のヤーラ・ドゥマーニ氏の企画によるものです。

巡回展は、大日本印刷より多大なるご協賛を賜りました。

ブルックリン美術館展示基金は、本美術館が多様な観客を惹きつける野心的で世界水準の展覧会を実現するために、国際的な大展覧会から先進的な企画展にいたるまで、本美術館のすべての研究、開発、展示を支援しています。ご支くださる次の寄付者の皆さまに深く感謝いたします。このような取り組みは、こうしたご支援によって可能となっています：ナンシー・P・マグリーン、ジョン・H&レジーナ・K・スカリー、ディディ&バーニー・ウィグモアの各氏。

ブルックリン美術館について

200年にわたり先駆的な美術館として高く評価されているブルックリン美術館。多彩な展覧会、公共プログラム、コミュニティ重視の取り組みを通して、芸術をめぐる物語の幅を広げ、多様な声をすくい上げ、創造的な表現を現代の重要な対話の中心に据え続けています。本美術館は、ブルックリンの中心部にある歴史的建造物の中にあり、世界各地の文化と **6000** 年を超える歴史を体現する **14** 万点以上の作品を所蔵し、古代エジプトの傑作から重要なアメリカ美術作品群、他に類を見ないフェミニスト・アートの展示場で公開される画期的なインスタレーションにまで及びます。アメリカ国内で最古・最大の美術館の一つであるブルックリン美術館は、常に革新を追求し続け、地域社会に向けた魅力的な体験を創出し、圧倒的な感動、対話、喜びをもたらす芸術の力を称えています。